

健康 ぷらざ

予防接種で 子どもを守りましょう

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医療部長 安慶田 英樹

企画：
日本医師会

No. 413

増えた定期接種ワクチン

子どもの命にかかわる病気には、ワクチンで予防できるものがあります。症状が重くなったり、後遺症が残るのを防ぐのが予防接種です。

2013年から定期接種に「インフルエンザ菌b型(Hib)」「小児用肺炎球菌」「子宮頸がん(HPV)」のワクチンが加わりました。2014年秋には水痘ワクチンも追加されます。

接種できるワクチンの種類が多くなり、予防できる病気が増えましたが、接種スケジュールは複雑になってきました。

おかあさんも
リラックスして
くださいね…



ワクチンデビューは生後2ヵ月

ワクチンによって接種する年齢や回数や間隔が違います。どのワクチンも定められた期間のなかで早めに接種して、病気になる前に免疫をつけておくことが大切です。定期接種のワクチンデビューは「生後2ヵ月」と覚えてください。

接種回数が多いことと、赤ちゃんの体調によって接種のチャンスは限られるので、複数のワクチンを同時に接種する同時接種をお勧めします。同時接種の効果と安全性は確かめられています。

生後2ヵ月で接種が推奨される 定期予防接種

インフルエンザ菌b型(Hib)

標準として生後2ヵ月以上7ヵ月未満で接種を開始すること。生後12ヵ月に至るまでの間に、27日以上の間隔で3回接種（医師が必要と認めた場合には20日間隔で接種可能）。初回接種から7～13ヵ月後に、1回追加接種。

肺炎球菌(13価結合型)

生後2ヵ月以上7ヵ月未満で開始し、27日以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12～15ヵ月に1回接種の合計4回接種。

(国立感染症研究所 予防接種スケジュールから抜粋)

任意のワクチンも接種しましょう

B型肝炎、ロタウイルス、おたふくかぜは有料の任意接種のワクチンですが、重要性は定期接種の病気と変わりはありません。定期接種化が望まれているワクチンなので、積極的に接種しましょう。

予防接種はふだんの様子を知っているかかりつけの小児科で受けるのがよいでしょう。スケジュールが予定通りにいかないときや、気になることがあったら、よく相談してください。